

KITOKU ACADEMY

【00】東洋思想の地図

気学のルーツを辿る旅

この教材の核心は、気学を単独の占術として学ぶ前に、それがどんな思想の土台から生まれてきたのかを理解することです。気学は吉凶を当てる技術ではなく、人間が自然や時間の流れの中でどう動くかを考える知恵の体系です。

ここでは、その土台を「東洋OS」と呼びます。西洋的な制御のOSに対して、東洋OSは調和のOSです。自然を支配するのではなく、自然のリズムを読み、そこに自分の一手を合わせていく。その発想が、九星気学・風水・家相・姓名鑑定・納音へつながっていきます。

1. この資料の流れ

思想から理論へ、理論から術へ、そして日常へ。00では、この順番で東洋思想の全体像をつかみます。

順番	主題	ひと言でいうと
1	世界観のアプローチの違い	西洋は制御、東洋は調和。
2	儒教・道教・仏教・陰陽道	東洋思想の主要4体系。
3	東洋思想の全体地図	三大思想から陰陽五行、各種術数へ。
4	四柱推命・風水・九星気学・納音	それぞれ何を見るかが違う。
5	九星気学の歴史と流派	古代中国から近代日本への系譜。
6	あなたはすでに気学の中にいる	日常語や生活感覚に残っている。
7	KITOKUとは何か	現代向けに統合した実践ツール。

この順番が大切です。九星の意味だけを先に暗記すると、気学が単なる占いに見えます。先に思想の地図を持つと、なぜ方位や時間を大切にするのかが見えてきます。

2. 世界観の違い：西洋と東洋

この教材では、西洋と東洋を優劣で比べません。人類の知恵には、自然を制御する方向と、自然と調和する方向の二つがあると捉えます。

観点	西洋	東洋
自然との関係	自然を理解・活用・制御する	自然と調和して生きる
人間の位置	自然の外側から観察・操作する	自然の一部として流れに乗る
発展したもの	科学、医学、技術	気学、易、風水、家相
基本姿勢	コントロール	リズムへの同調

西洋は「なぜそうなるか」を分析して法則化するのが強い。東洋は「今どんな流れの中にいるか」を見て、適切な位置取りを考えるのが強い。気学は後者の発想に立ちます。

だから気学で大事なものは、当たる・当たらないよりも、流れの中でどう動くかです。

3. 東洋思想の4本柱

陰陽道は単独で突然生まれたものではありません。儒教・道教・仏教を吸収し、日本で神道とも結びつきながら、暦・方位・祭祀・吉凶判断を含む生活システムとして育ちました。

思想	何を問うか	性格
儒教	どう生き、社会を治めるか	社会倫理・政治思想
道教	自然にどう帰るか	自然哲学・宗教
仏教	苦をどう離れるか	解脱の道・実践哲学
陰陽道	禍をどう避けるか	吉凶・方位・呪術の体系

ひと言メモ	意味
儒教	社会を整える知恵
道教	自然に還る知恵
仏教	苦を超える知恵
陰陽道	日常で災いを避ける知恵

4. 東洋思想の全体地図

大きな流れは、中国三大思想・宗教から陰陽五行思想へ、さらに日本独自の陰陽道・神道・家相・九星気学へと展開していきます。

陰陽五行は、動画では「全てのシステムのベースコード」と説明されています。木・火・土・金・水の5つのエネルギーが循環して宇宙を動かす、という考え方です。

五行	季節	方位	意味
木	春	東	成長
火	夏	南	情熱
土	土用	中央	安定
金	秋	西	収穫
水	冬	北	蓄積

五行を丸暗記項目として見るのではなく、世界の変化を読む言語として理解してください。木は伸びる、火は燃え上がる、土は受け止める、金は締まる、水は溜める。このコードで、季節・方位・性格・出来事の流れを読んでいます。

5. 各術法は何を見るのか

全部が陰陽五行を土台にしても、見ている対象は違います。ここを混同しないことが、学習をすっきりさせるコツです。

術法	一言でいうと	何を見るか
四柱推命	人を見る術	生年月日時から命運・性格・運勢を見る。
風水	土地・環境を見る術	住居・空間配置の吉凶を見る。日本では家相へ発展。
九星気学	方位・時運を見る術	移動・引越し・旅行の吉凶を見る。KITOKUのコア。
家相	住まいを見る術	日本の風土に合う空間設計を見る。
姓名鑑定	名前を見る術	画数・音・陰陽・五行を見る。
納音	魂の音を見る術	本質・縁の質を見る。

四柱推命 = 人、風水・家相 = 場所、九星気学 = 時間と方位、姓名鑑定 = 名前、納音 = 魂の質。まずはこの整理で十分です。

6. 九星気学の特徴

九星気学は、時間と方位を使って、自ら動いて運を取りに行く術です。ここが、結果を待つだけの占いとの大きな違いです。

九星気学では、人はただ運勢を眺める存在ではありません。いつ動くか、どちらへ向かうか、どんな環境に身を置くかによって、流れへの乗り方が変わると考えます。だからこそ、旅行・引越し・日々の移動・大切な行動のタイミングが重要になります。

読み方	受け身の占い	九星気学
姿勢	結果を知る	どう動くかを決める
対象	性格・運勢の説明	時間・方位・行動の選び方
目的	当たったか確認する	流れに乗る一手を選ぶ

気学は、自分の足で運を取りに行くための実践知です。

7. 納音を混同しない

00で特に大切なのが納音です。納音には、魂の本質を見る側面と、物事がリセットされやすい時期を見る側面があります。KITOKUでは主に、本質を見る納音を使います。

見方	内容	KITOKUでの扱い
古典的な納音五行	六十干支と音韻理論を30種類に分類し、魂の本質・天分・縁の質を見る。	採用。海中金・炉中火などの詩的な質を読む。
四柱推命的な納音	同じ十干で地支が沖の組み合わせを扱い、白紙に戻りやすい時期として読む。	タイミング論として参考。中心ではない。

初心者は、納音を一つの意味に固定しないこと。00では「何者か」を見る本質論を中心に覚えてください。

8. 九星気学の歴史

九星気学は突然発明されたものではありません。洛書、易、陰陽五行、陰陽道、日本の実践知が積み重なり、近代に体系化されました。

時代	出来事
紀元前2000年以前	禹王が亀の甲羅から九つの符号を悟り、洛書にまとめたとされる。
紀元前1000年頃	周の文王が易を体系化。
紀元前500年頃	孔子が古の知恵を整理。
平安時代	日本で陰陽道として制度化。
1909年	園田真次郎が気学として体系化。
現在	法道会などが継承し、多数流派が発展。

この年表が言いたいのは、九星気学は思想・暦・方位・国家制度・民間実践が積み重なったものだということです。占いテクニックだけを切り出すと、本質を見失いやすくなります。

9. 流派とKITOKUの立場

気学には占筮派・義理派などの流れがあり、方位角度や凶方の解釈にも違いがあります。だから、すべてを一つの絶対解だけで扱おうと、かえって学びが硬くなります。

KITOKUは特定流派に依存するのではなく、各流派の知恵を現代の生活に使えるよう統合して設計しています。流派争いではなく、自分で判断する力を育てることを重視します。

誤解	学び直し
気学には絶対に一つの正解だけがある	流派差を理解した上で、使える知恵として整理する。
吉方位だけ取ればよい	人間性、心の姿勢、環境、タイミングも合わせて見る。
凶はただ怖いもの	避けるべきものを知ることで、正しい一手を選びやすくなる。

10. あなたはすでに気学の中にいる

東洋思想や気学は、特別な人だけのものではありません。日本語や生活感覚の中に、すでに方位や時間の象徴が残っています。

日常語	気学との関係
午前・午後	午は南・昼を指し、その前後で時間を分ける。
子午線	北 = 子、南 = 午を結ぶ線。
鬼門	北東の方位。
恵方参り	その年の良い気が集まる方位へ自ら行く実践。
お天道様が見ている	天の気・宇宙法則への畏敬。

東洋思想は、昔の本の中だけにあるものではありません。私たちは知らずに、すでに方位や時間を象徴的に使う文化の中にいます。東洋OSは古くて使えない神話ではなく、今も日常に実装されているコードです。

11. KITOKUとは何か

KITOKUは、九星気学・姓名鑑定・家相・納音・相性を統合した、自分で決めるための東洋OSです。

大切なのは、占いに依存させることではありません。流れを読み、選択肢を整理し、自分で判断する力を育てることです。KITOKUは、東洋思想を現代語に翻訳し、日々の判断に使える形へ落とし込むための道具です。

KITOKUの統合領域	見るもの
九星気学	時間・方位・移動の流れ。
姓名鑑定	名前の器、音、画数、五行。
家相	住まいと空間の気。
納音	魂の音色、縁の質。
相性	人と人の響き方。

ゴールは当ててもらうことなく、流れを読み、自分で決めることです。

12. 復習用まとめ

00は、気学を学ぶ前に東洋思想の地図を持つための導入です。最後に、初心者が誤解しやすい点と要点を整理します。

問い	答え
西洋と東洋の違いは？	西洋は制御、東洋は調和。
陰陽道の特徴は？	儒教・道教・仏教を吸収し、日本で神道とも結びついた総合体系。
陰陽五行は何の土台？	四柱推命・風水・九星気学・家相・姓名判断などの共通基盤。
九星気学は何を見る？	方位と時運。特に移動・引越し・旅行の吉凶。
KITOKUの思想的ゴールは？	占い依存ではなく、自分で決める力を育てること。

気学は単なる占いではなく、自然・時間・方位・人間の関係を読むための東洋的判断システムです。この地図を持っておくと、01以降の学びがかなり整理しやすくなります。

journey6112.jp